

広島大が衝撃発表！ “サイトカインストーム” 発生で症例報告 4 例全員の体温が「異常高温」

2022 年 11 月 5 日日刊ゲンダイ

コロナワクチン接種後死亡を追う 山岡淳一郎ノンフィクション作家



総じて厚生労働省と医学界は、新型コロナウイルスワクチン接種と接種後死亡の因果関係の解明には消極的なように見える。

そうしたなか、広島大学の法医学、病理学講座を中心とする研究グループが、「Frontiers in Immunology（免疫学の最前線）」という国際免疫学連合会（IUIS）の学術誌に画期的な（？）症例報告を発表した。論文の題は「新型コロナウイルスワクチン接種後のサイトカインストーム 4 例（原文は英語）」。査読を経て、今年 8 月 15 日、学術誌のサイトに掲載された。その内容は衝撃的だった。

広大研究チームは、2 回目の接種後 1～10 日で死亡した 20～50 代の男性 4 人の遺体を解剖した。そこに前回詳述した岡本裕二さんの長男も含まれている。4 人のうち 3 人がモデルナ製ワクチン、1 人がファイザー製を接種していた。病理解剖の時点ではどの遺体からも死亡原因にかかわる情報を得られなかった。ただ、4 人とも検視官が測った直腸温から死亡時の体温が、41～43 度、42～46 度、39～41 度、43～44 度と「異常高温」だったと推測される。

そこで広大チームは、死亡後、それぞれ 24 時間以内に採血した血液サンプルを「RNA シーケリング」という最先端技術を使って解析。「遺伝子発現（遺伝子の遺伝情報がさまざまな生体機能をもつタンパク質の合成を通じて具体的に現れること）」の変化を突きとめる。その結果、4 人ともサイトカインが過剰に放出されて暴走し、自らを攻撃するサイトカインストームが発生。全身性炎症反応症候群（SIRS）を発症して死に至ったと推

認されたのだ。

20世紀初め世界的に流行し、死亡者が推定1億人を超えた「スペイン風邪（H1N1亜型インフルエンザ）」で青年層に被害が多かったのはサイトカインストームによるものといわれる。免疫力の強い若者は、免疫系が極端に反応すると全身に嵐のような混乱が生じる。

■副反応の高熱を甘く考えてはいけない

広大の症例報告には、こう記されている。

「死亡した4人は、最初のワクチン接種によって免疫能が感作（特定の抗原=新型コロナウイルスに対して生体を感じやすい状態に）され、2回目のワクチン接種によってSIRSが発症しやすくなったと考えられる。また、この4人はSIRSを発症しやすい生まれつきの素因を持っていた可能性がある」

ただし、今回の症例だけでワクチン接種を危険とみなすべきではない、と広大チームは説く。そして、異常なサイトカイン過剰の原因は明らかではないとしたうえで、こう警告を発する。

「解熱剤を用いても、ワクチン接種後に40度を超える異常高熱がみられた場合には、注意深い観察と対処が必要と思われる」

副反応による高熱を甘く考えてはいけないのである。